

日本鉄鋼協会記事

企画委員会

第5回委員会 開催日：11月21日。出席者：佐伯委員長，ほか18名。

1. 日本オーストラリアシンポジウム報告
10月13日，14日経団連会館で開催された。テーマは
① Coal and Coke for Ironmaking ② Ore Beneficiation ③ Ironmaking で Keynote address 各1件，両国より各8件の論文が提出された。

2. 第2回日本中国鉄鋼学術会議，第2回製鋼学術会議報告

11月14日～16日経団連会館で開催された。テーマは Physical Chemistry of Steelmaking 他で日本から15件中国から12件の論文が提出された。次回は2年後中国で開催される予定。

3. 湯川記念講演会開催の件
来春講演大会時に Dr. D. J. BLICKWEDE (ASM 会長) による湯川記念講演会を開催することを決定し，理事会に諮ることになった。

編集委員会

第5回編集運営委員会 開催日：11月11日。出席者：宮川委員長，ほか16名。

1. 各分科会の活動報告がなされた。和文会誌分科会からは特集号のテーマと技術報告の取扱い方について，欧文会誌分科会からは新設の New Technology と59年の「連鑄」特集号について，講演大会分科会からは108回大会の報告と討論会テーマの決定について，出版分科会からは鉄鋼便覧の翻訳・出版について報告された。

2. 創立70周年記念特集号の編集の中間報告がなされた。

3. 次回の俵論文賞の選考方法は従来通りにすることが確認された。

第8回和文会誌分科会 開催日：11月11日。出席者：宮川主査，ほか22名。

1. 10件の論文審査報告がなされ，掲載決定5件，照会后掲載可3件，その他2件であった。

2. 「鉄と鋼」第70年第3号(3月号)に論文13件，技術報告1件，寄書1件掲載決定した。

第8回欧文会誌分科会 開催日：11月4日。出席者：大森幹事，ほか15名。

1. 15件の論文につき審査報告がなされ，掲載可1件，照会后掲載可4件，修正依頼6件，返却4件であった。

2. 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より，4件の Technical Report と1件の Research Article を勧誘することとなった。

第5回講演大会分科会 開催日：10月28日。出席者：鈴木主査，ほか14名。

1. 第106回講演大会(於：秋田大学)の反省ならびに報告が事務局と各委員からあった。

2. 第108回大会討論会の分野ごとのテーマおよび座長が決定した。また第109回以降の討論会テーマは次回分科会で選定することになった。

共同研究会

第63回製鉄部会 開催日：10月27～28日。開催地：川鉄・東京。出席者：伊沢部会長，ほか134名。

- 講演Ⅰ「高炉の鑄床脱珪について」
- 講演Ⅱ「焼結工場の省エネルギーについて」
- 共通議題「最近の装入物分布の管理と制御について」
- 自由議題 7件

第86回製鋼部会 開催日：10月20～21日。開催地：新日鉄・大分。出席者：甲谷部会長，ほか109名。

- 重点テーマ：「溶鉄予備処理技術」研究発表件数6件。
- 自由テーマ：研究発表件数12件，うち精錬に関するもの7件，連鑄に関するもの4件，その他1件。
- 特別講演「大分製鉄所における製鋼技術について」
- 工場見学：新日本製鉄(株)大分製鉄所

第76回圧延理論部会 開催日：11月7～8日。開催地：川鉄・知多。出席者：平野部会長，ほか122名。

研究発表件数14件，その他今回から「技術史」としての記録，「匠」の創設，次世代技術者の育成を目的として特別講演を創設しその第1回目として，大河内生産記念賞を受賞した「シームレス圧延における数値管理圧延」を川鉄，知多，上杉第2製管部長より講演していただき大変有意義であった。更に阪大加藤教授より，日本・チェコシンポジウムに参加した報告もあり話題も多かった。

同時に，知多製造所のシームレス工場の見学を実施し盛会のうちに終了した。

鋼板部会

第56回厚板分科会 開催日：11月10～11日。開催地：鋼管・京浜。出席者：平井主査，ほか100名。

- 工場操業状況報告
- グループ討議(1)スタッフテーマ「低生産下における最適操業」，(2)作業長テーマ「加熱・圧延職場における省エネルギーJK活動成果」
- 工場見学 日本鋼管(株)京浜製鉄所

第39回ホットストリップ分科会 開催日：11月10～11日。開催地：新日鉄・堺。出席者：松田主査，ほか103名。

定例議題の操業成績報告と今回は共通議題として「熱

延操業システム」について討論を行った。特に今回は工場長より、システムの概要、問題点および自己評価、今後の改善について説明を行い質疑を行った。システム関係については非常に細かい点もあり、また工場操業側だけの議論では片手落ちと思われる。

更に、システムを作った人が、交替していなくなると、それに伴ってシステムの中味が分からなくなる傾向にあることも指摘されており、今後システム作りには十分な検討が必要と思われる。

条 鋼 部 会

第 38 回大形分科会 開催日：11月10～11日。開催地 新日鉄・八幡。出席者：毛利主査，ほか 69 名。

1. 工場操業状況
2. テーマ研究
「要員合理化，省力化の状況と今後の方向」
3. 自由研究 4 件
4. 特別講演
(1) 演題「産業用ロボット」
(2) 講師 (株)安川電機製作所 安部凱憲氏

鉄 鋼 分 析 部 会

第 53 回部会 開催日：10月28日。開催地 新日鉄・八幡。出席者：川村部会長，ほか 76 名。

1. 審議 (1)各分科会・小委員会報告，(2)部会幹事会報告，(3)関係委員会報告，(4)次回部会開催について，(5)その他

2. 工場見学：新日本製鉄(株)八幡製鉄所

第 43 回発光分光分析分科会 開催日：10月26日。開催地 新日鉄・八幡。出席者：井樋田主査，ほか48名。

1. ICP 分析共同実験結果まとめ報告
2. 予備放電効果調査共同実験について
3. その他

第 72 回鋼中非金属介在物分析分科会 開催日：10月27日。開催地 新日鉄・八幡。出席者：宮本主査直属幹事，ほか 19 名。

1. 鋼中酸化物等介在物抽出分離定量法に関する研究 (1)第2回共同実験に関する自発検討結果の報告，(2)第2回共同実験結果の報告と審議，(3)第3回共同実験の進め方

2. その他

第 10 回鋼中ガス分析分科会 開催日：10月26日。開催地：新日鉄・八幡。出席者：藤野主査，ほか 32 名。

1. 鋼中窒素分析共同実験について
2. 鋼中酸素分析について
3. その他

標 準 化 委 員 会

ISO 鉄 鋼 部 会

第 64 回 SC12 分科会 開催日：9月20日。出席者：林主査，ほか 9 名。

1. 機械用熱延炭素鋼板の日本提案
2. 共通的性格をもつ規格についての日本提案審議

3. ISO 規格の5年見直し

第 22 回 EC 分科会 開催日：10月13日。開催地 日本規格協会。出席者：小倉主査，ほか 8 名。

1. 効率的 ISO 活動のための国内対応策検討

第 81 回普通鋼分科会 開催日：9月19日。出席者：小倉主査，ほか 13 名。

1. JIS 審査事項 (案) の検討

第 75 回特殊鋼分科会 開催日：9月21日。出席者：手塚主査，ほか 11 名。

1. JASO 改正について
2. JIS 審査事項改正案の検討

第 76 回特殊鋼分科会 開催日：10月18日。出席者：手塚主査，ほか 11 名。

1. IIS 審査事項改正案の審議
2. JASO 改正について

第 18 回線材分科会 開催日：9月22日。出席者：徳梅主査代行，ほか 7 名。

1. 委員交代の紹介
2. JIS 審査事項改正案の審議

第 2 回 JIS 鋼管規格改正原案作成分科会 開催日：10月12日。出席者：加藤主査，ほか 18 名。

1. 配管用 9 規格に関する経過報告
2. 資料 11 に関する検討結果
3. 資料 11～16 に関する検討結果

高 温 強 度 研 究 委 員 会

第 9 回クリープ強度外挿法分科会 開催日：10月18日。出席者：藤田主査，ほか 14 名。

1. 「ISO 6303 に準拠したクリープ破断データ外挿法の手引」刊行報告
2. 同書に対する各社委員の反響，要望
3. 講演「高速炉の高温構造設計における外挿法の役割」
4. 今後の進め方

鉄 鋼 基 礎 共 同 研 究 会

第 11 回連続鋳造における力学的挙動部会 開催日：10月18日。出席者：森部会長，ほか 26 名。

1. 総合報告 (1)統一データによるバルジング解析結果
2. 研究発表 (1)連鑄鑄片内部割れ限界歪みの測定，(2)連鑄々片の上下表面差冷却矯正による内部割れ防止(3)SUS 316L 連続鋳造スラブの内部割れに及ぼす2次冷却の影響，(4)低炭素合金鋼の $(\alpha + \gamma)$ 2相域での延性，(5)低炭素鋼および極低炭素2%アルミ鉄の変形抵抗におよぼす温度とひずみ速度の影響

第14回融体精錬反応部会 開催日：10月24日，出席者：森部会長，ほか28名。

1. 研究発表 計10件
 - (1) スラグ，溶鉄中の活量 3件
 - (2) スラグ-溶鉄間の分配 3件
 - (3) 底吹き，インジェクション等における溶鉄の流動，反応特性 3件
 - (4) 上底吹き転炉内でのソーダ灰による脱燐 1件

鉄鋼技術情報センター

第7回センター共同研究会 開催期日・場所：10月20日。於：新日鉄・新山谷寮。出席者：野田幹事長，ほか110名。

技術情報管理の機械化をメインテーマとして，パソコン，ミニコンを用いた図書管理，委員会管理，資料管理について9件の報告があつた。

他に，鉄鋼連盟からSISのデータベースサービスの現状他3件の自由テーマ報告があつた。

情報検索委員会

第20回幹事会 開催日：9月26日。出席者：加畑委員，ほか7名。

1. インデクシングに関するW.G.発足の提案
2. センター公衆回線端末機の利用について

3. IR研究会 第1回の反省と第2回の計画 幹事会の前に日本エス・ディー・シー説明会を行った。(出席者14名)

1. 日本エス・ディー・シーの特許・文献情報オンラインサービスの案内
2. METALS DATAFILEの説明
3. パソコンによるオンライン情報検索のデモンストラレーション

第21回幹事会 開催日：10月25日。出席者：加畑委員，ほか9名。

1. W.G.について

案内語リスト(仮称)を作成することが決まり，作業の手順などを検討した。ことばの整理にパーソナル・コンピュータまたはワード・プロセッサを利用することが提案された。

2. 昭和58年度後半の活動計画

12月に委員会と見学会(富士フィルム)1～2月にIR研究会を開催することなどが決まった。

第36回センター編集委員会 開催日：10月12日。出席者：近江委員長，ほか13名。

1. 前回議事録の確認
2. 委員交替および新事務局員の紹介について
3. アンケートの集計報告および検討
4. 現地編集委員会の開催について

日本学術会議第13期会員選挙の中止について

日本学術会議第13期会員選挙につきましては，本誌会告でお知らせして来ましたが，このたび(12月1日付)同会議中央管理委員会から，「日本学術会議法の一部を改正する法律」が，昭和58年11月28日第百国会において成立したので，同日をもって今第13期会員選挙の執行を中止する旨，連絡があり周知方依頼を受けましたので，お知らせします。

なお，今回の法改正により，日本学術会議会員の選出方法が，「選挙制度」から「学術研究団体からの推薦制度」に改められ，また，現第12期日本学術会議会員の任期は，「昭和59年1月20日から起算して1年6か月を超えない範囲内で政令で定める日の前日」まで延長されることになったと申し添えがありました。